

# エリアウェーブ

9月

掲載内容  
 ・峡東「保幼小中連携セミナー」  
 ・峡東地域の教育活動/イベント等の紹介  
 ・峡東教育事務所からのお知らせ

## 8月22日保幼小中連携セミナー「子どもたちの心をどう育てるか～愛着障害と発達障害の理解とその支援～」 日本学校教育相談学会山梨県支部長・公認心理師 内藤 雅人(ないとう まさひと)氏

※詳細は11月発行の「講演録」をご覧ください。

◇「愛着障害」という病名はない。必ずしも母親が手を抜いたというわけではない。

◇「発達障害」は、それ自体何ら問題ではない。

◇労働形態の変化と核家族化により、子どもに対する愛情のかけ方の変化

◇早期に保育所を利用せざるを得ない状況により、乳幼児期に親子で過ごす時間の減少

◇発達段階に応じた心の教育

乳児期：視線、声、身体的接触等による愛着形成。信頼感を

幼児期：親的人物の姿勢から自律性、相手の気持ちを考える力を

保育園：遊びや生活を通して相互尊重と意欲・自主性を

小学生：友人関係の中で勤勉性を

中高生：自己理解・他者理解をとおしてアイデンティティの確立を  
 ◇発達障害と愛着障害の混同！愛着障害の疑いが強いにもかかわらず、発達障害という診断と支援を受けているケースが少なくない。

◇愛着障害の主な特徴：多動性。身の回りが散らかっている。ルールが守れない。物をいじる。物をなくす。触りながら歩く。傷つける。指を吸う。ものをなめる。相手に噛みつく。腕等をなめる。靴や靴下を脱ぐ。床に寝転ぶ。無警戒に話しかける・警戒する・避ける。姿勢が崩れる。椅子を動かす。服を脱ぐ。遺糞遺尿。高いところに上がる。物を投げず。窓から出入りする。愛情欲求行動～様々な訴え。保健室。大声。試し行動。要求の増加。自己防衛～非を認めない。うそ。責任転嫁。被害報告。籠もる。解離性健忘。自己評価の低さ～虚勢。自傷。カプマニア。摂食障。睡眠障害  
 ◇愛着（アタッチメント）とは特定の人と結び情緒的な心の絆

◇愛着障害とは絆がまだ、十分に出来ていない状態、あるいは絆が崩壊している状態（感情発達の問題）

◇愛着障害に関する誤解：施設での生活や虐待の結果である→どこの家庭にも起きる。親の育て方が悪い→関わり方が合っていなかっただけ。乳幼児期を過ぎると取り戻せない→臨界期はなく修復できる。母親との間にだけ築かれる→誰でも良い。

◇愛着形成がなぜ必要なのか：人に対する基本的信頼感の土台となる。他者と関わる楽しさや喜びを身につける。自己表現力・コミュニケーション能力を高める。自分の要求を伝えたり、相手の要求を受け入れたりできる。自己の生存と安全を確保する。見知らぬものにチャレンジしようとする。積極性や



内藤 雅人 氏  
 北巨摩の小学校を中心に教鞭をとり、明野小学校校長として退職。都留文科大学で道徳教育研究講座を担当。平成31年から北杜市家庭児童相談員。現在は「公認心理師・スクールカウンセラー」として活動。また、日本学校教育相談学会山梨県支部長も務める。

好奇心。失敗から立ち直るレジリエンスやストレス耐性を身につけることができる。

◇愛着障害の原因：養育者に対し、優しく抱かれること・親密さ・優しさ・庇護を求めるがこれが満たされない場合。ネグレクト。虐待。不適切な養育。無関心や放任。親の価値観のみで行った優しさ。愛情（過保護・過干渉）

◇愛着障害：後天的（5歳以前）で養育者の関わり方、養育者の変更・死別、不適切な養育環境、虐待・無関心などが原因。親密な関わりや課題の軽減により完治も可能

・発達障害：先天的で脳機能の障害による。「完治」はしない。療育。SST

◇愛着障害の克服には、言動の裏にある気持ちの理解。要求を敏感にキャッチし対応。指示や支援をし過ぎない。1メッセージによるコンタクト

◇子どもの心の発達を促進する大人の特性：知覚（感性・感受性）、理解（言動の意味を理解し、受け入れる）、応答（ニーズに対し、素早く適切に対応する）、侵害的でないこと。

◇愛着障害への支援の原則：頭ごなしに言動そのものを叱らない。曖昧な褒め方をしない。不適切な言動を無視しない。言いなりにならない。SSTは必ずしも成功しない。思い思いの方法で関わらない。独占欲求を拒否しない。被害の訴えをそのまま取り上げない。理詰めで追い込まない。「何をやる?」「なんでもいいよ」は「〇〇をやろうか」。一緒に活動し感情のラベリングを。

◇愛着修復における学校の役割：学校は、愛着の形成、修復に適している。「安心感」をベースとした学級経営が最も重要である。

◇発達障害を支援する際の留意点：特性を十分理解した上で言葉を選ぶこと。マインドワンダリング。二次障害を引き起こさないよう留意。極端な偏食はわかままな偏食ではない。少しずつ食べられるものを増やしていくなど。

◇まとめに代えて：愛着障害は、対人関係を通してのみ修復することができる。大人は敏感に子どものシグナルを知覚し、意味を理解し適切に応答すること。親子の関係性を修復する上で、保育園や学校は大きな可能性を持っているが、一人で背負うと支援者が病む結果になる。連携による支援が必要である。（チーム学校・教育、福祉行政・地域コミュニティ）効果的な連携には、コーディネーターが不可欠である。「問題児」と見るのではなく「問題を背負わされている子」と認識。子どもだけでなく子育てに苦戦している人も支援の対象とする。



多くの校種が集うセミナーとなりました

## 「ネットモラル学習会」～学びを普段の生活に活かす～ 山梨市立日川小学校



誰が書きこんだかを特定します

7月6日に日川小学校において、学びの集会の一環として「ネットモラル学習会」が行われました。最初に校長先生から「今日学んだことをいかに普段の生活に活かすかが重要です」との話がありました。初夏の暑い中でしたが、児童は集中して講義にのぞんでいました。今回は山梨南中学校の齋藤和裕先生を講師に迎えて、特に「ネットの危険性」について学びました。齋藤先生が自作したソフトを児童4名が使いながら、ネットの書き込みから個人が特定される様子を体感しました。最近話題の chatGPT は、大量のデータを解析し学習することで自然言語処理を行う AI です。非常に便利で有効なツールですが、情報漏洩のリスクや悪意のある攻撃者が chatGPT を利用してフィッシング攻撃を仕掛ける可能性もあります。ネットで世界中がつながった現代社会においては、危険性を知った上でツールを使いこなす最新の情報セキュリティが必要であることを再確認できた時間となりました。



アクセスログには多くの情報が残る

## 「俳句を作ろう！」～夏をテーマにして一句～ 笛吹市立富士見小学校・笛吹市生涯学習課



事前に作ってきた句で俳句のルール確認



我先に句を黒板に板書する児童たち

7月11日に富士見小学校の4年1・2組を対象に俳句の出前授業が行われました。富士見小学校は講師の齋藤幸三先生にとっては母校となります。最初に「夏」をテーマに児童が作ってきた句をプリントで紹介しながら、俳句のルール（季語・五七五）を確認します。仲間が作った句の中から各自がお気に入りを選び、齋藤先生が俳句のルールに沿って丁寧に添削します。児童は一生懸命にポイントをメモします。「リズムが大切」「季語はひとつだけ」「プラス志向の表現がいい」などのアドバイスは児童の意欲を高めてくれます。続いて本日のお題である「風鈴」「写真（青い海に浮かぶ雲）」に取り組みます。齋藤先生は添削しながら「すべてを言わず、読む人に想像してもらう」ことの大切さを伝えていました。楽しむことから始まった俳句への世界。



今度は「風鈴」をテーマに句を作ろう！

何気ない日常の風景にも多くの題材が潜んでいることに気づいたはずです。

## 峡東管内「中学生防犯・交通弁論大会」～県大会での健闘を祈ります(^o^)/～

実施日等	防犯弁論の部	交通弁論の部
8月29日・日下部警察署管内	横田 萌百（塩山北中）	中島 遥（山梨南中）
8月31日・笛吹警察署管内	神谷駿太郎（春日居中）	笠井 陽向（石和中）



## 「宇宙の学校」～熱気球/風車と紋切り遊び～ 甲州市教育委員会生涯学習課



宇宙の魅力について語る小林教育長



微調整でも回転が大きく変化する

7月8日に甲州市民文化会館において恒例の甲州市「宇宙の学校」が行われ、20組の親子が参加しました。この事業は今年で11年目を迎えるもので、単に宇宙のただを学ぶのではなく、子どもたちの日常や身の回りで起こることや不思議に思う現象など、一見宇宙とは関わりがない教材もプログラムに組み込まれています。第1回目が大雨の関係で延期となったため、今回は2つのプログラムの「熱気球をとばそう」と「風車と紋切り遊び」をあわせての実施となりました。開校式では小林教育長から14年ぶりとなる日本人宇宙飛行士募集の話がありました。宇宙への思いを持ち続けることで、もしかしたら未来の宇宙飛行士がこの中から生まれるかもしれません。



熱気で満たされると気球は上昇開始

## 「教えることで分かること」～小学生科学教室・サイエンスステップ～ 県立日川高等学校



全体会で各講座の説明とアピール

講座は高校生・中学生が主導し、教員はあくまでもサポート役です。最初は遠慮がちの中高生でしたが、小学生の笑顔や素朴な疑問に答える中で、「伝えること・教えること」の楽しさを感じていきます。中には「なんでこうなるの？」という質問に対してすぐに答えを教



「つかめる水を作ろう」は大人気です



石臼は全力でやらないと回らない重さ

えるのではなく、「あなたはどう考える？」とあえて問いかけをして考えさせる生徒もいました。大人になると知識が増えることで、逆に「こんなこと考えても無駄かな・・・」と感じてしまうことがあります。しかし、世界を変えるイノベーションは常に「常識を疑うこと」で生まれてきました。体験をした小学生だけでなく、教える側の高校生・中学生にとっても非常に有意義な時間となったはずで



## 世界最古のオーケストラ ～目を閉じて平安の世を思う～ 山梨ことぶき勸学院



三管（箏・笙・龍笛）について説明

7月21日に双葉ふれあい文化館において、四教室合同での「雅楽鑑賞会」が行われました。今回は管弦（楽器のみ・主に屋内で演奏）と舞楽（舞を伴う演奏・主に屋外で演奏）をあわせて7つの演目を鑑賞しました。演奏前に穴切大神社の秋山忠也氏から雅楽と楽器についての説明がありました。実際に箏（ひちりき：主旋律・葦で作ったリードを付けて吹く）・笙（しょう：主に和音・吹いても吸っても音が出る）・龍笛（りゅうてき：跳躍音や細かい装飾を伴った旋律・音色が龍の鳴き声に似ている）の演奏者が登場して、それぞれの楽器の役割・特徴が説明されました。演奏が始まるとゆったりとしながらも、心の奥底にじっくりと染み渡ってくる感じがあります。どこかで聞いたことがある懐かしい感覚。短い時間でしたが、目を閉じると平安の世が浮かんでくるような優雅な時間となりました。



受け継がれてきた音色が会場中に響き渡る



舞には「国風舞」「左方の舞」「右方の舞」がある

## 「フッキー体験塾」で夏の思い出づくり ～あしがわ自然体験～

笛吹市青少年育成推進協議会 笛吹市生涯学習課

笛吹市青少年育成推進協議会では、子どもたちの豊かな人間性を育てるため「フッキー体験塾」を通じて様々な体験教室を実施しています。7月9日には芦川グリーンロッジにおいて、「あしがわ自然体験」が行われました。内容は魚のつかみ取り体験・火おこし体験・水鉄砲での射撃大会と盛りだくさん。つかみ取り体験では、溪流の冷たさを感じながら、魚の素早い動きに目をこらします。協力しながらやっとのことで魚を捕まえるとみんな大はしゃぎ。次に捕まえた魚を焼くために火をおこしますが、簡単に火はついてくれません。みんなで相談しながら試行錯誤を繰り返します。やっと小さな種火がついたときには歓声が上がりました。苦勞しながら取って焼いた魚の味は格別なはず。おそらく一生忘れることはないでしょう。最後は水鉄砲での射撃大会でお宝をゲットしあって、笑顔いっぱいの楽しい夏の思い出となりました。



魚も必死なので捕まえるのは大変



自分で捕った魚の味は格別です



最後はみんなで感謝を伝え合います



## 「続けることの大切さ」～交流から始まること～ 笛吹市立春日居中学校・県立ろう学校



春日居中の生徒が「手話」で自己紹介

県立ろう学校では地域の教育機関やボランティア団体との交流を長年にわたって行っています。近隣の交流学習提携校（加納岩保育園・山梨小学校・春日居中学校・山梨高校）とは定期的に交流を行っており、多いところでは年間10回を超える交流が計画されています。昨年度まではコロナの影響で対面での交流があまりできませんでしたが、本年度は感染状況を考慮しながらできるだけ対面での交流を行う予定です。今回の春日居中学校での交流では、生徒たちはごく自然な振る舞いの中で活動を行います。約40年前に校長先生が中学生として在籍していたときには、すでに始まっていた交流学習。豊かな心が受け継がれていることを実感できたひとときでした。



美術部での部活動体験



白熱した卓球部での部活動体験

## 「食べられる科学実験」～予想とは違う驚き～ NPO 法人すてっぴ・あっぴる



シュワシュワ感は二酸化炭素の泡による



バターになるまで振り続けます

8月1日に甲州市のすてっぴ・あっぴるにおいて「夏休み小学生企画：食べられる科学実験」が行われました。身近な食材を使ったの実験で、内容は「しゅわしゅわラムネ」「手作りバター」「色が変わるホットケーキ」の3種類です。午後の部には高学年8名とアシスタントの高校生2名が参加して、楽しい雰囲気の中で実験となりました。バターは脂肪球の膜が破れて脂肪同士がひっつくことで生まれます。（古代アラビアでは革袋に乳を入れ振動させていました）そのためバター作りには衝撃を与えることが必要で、子どもたちは生クリームと塩の入ったペットボトルを懸命に振り続けます。交代で作業を行い、今回の実験では生クリーム200mlから約120gのバターができあがりしました。ホットケーキの実験では、ホットケーキミックスにブルーベリージャムを加えたときの色と、それをホットプレートで焼いたときの色を予想します。キーワードはアントシアニンですが、予想と違う「え？」という色が現れたときの驚き。いずれ



熱を加えるとホットケーキは？色に変化

中学や高校で化学を学んだ際に「あのときの色はこの反応だったんだ！」という気づきにつながるはずです。 ☒

◆地域情報紙エリアウェブを通じて、「他校種の情報を知ることができる」「連携のきっかけになる」とのお声を寄せていただいております。特別なイベントである必要はありませんので、お気軽に情報をお寄せください。（記事として紹介させていただきます。現在約300カ所に配布中）

☎0553-20-2731(担当・直通)



エリアウェブ  
バックナンバー

## 言葉を交わし「連携」へのきっかけ作り ～峡地連「保幼小中連携セミナー」～



内藤先生の優しい語りによる講演

8月22日に笛吹市いちのみや桃の里ふれあい文化館において、本年度2回目の峡地連活動となる「保幼小中連携セミナー」が行われました。講師に臨床心理師の内藤雅人先生を迎え、『子どもたちの心をどう育てるか～愛着障害と発達障害の理解とその支援～』をテーマに講演



200名を超える参加申込がありました

を行いました。今回のセミナーではここ数年コロナの影響で実施できなかった「グループディスカッション（GD）」を導入してみました。参加者を「①保幼 ②小学校 ③中学校・高校 ④行政・その他」に分け、全30グループでのグループディスカッションを行いました。普段出会うことがない人々との交流は新鮮であり、事後アンケートでも『Aよかった78%、Bおおむねよかった18%』と肯定的な感想が96%という高評価でした。



GDでは活発な意見交換が行われました

お互いの立場や考え方を理解することで、「今の自分に何ができるか」をじっくりと考えてみる。多様な意見に触れることで、あらためて自分自身を振り返ることができる時間となりました。



## 令和5年度 峡地連関係の講演会

### 『人権のための講演会』（山梨市教育委員会共催）

日時 令和5年11月16日（木）午後3時～5時（受付・午後2時30分）  
 会場 山梨市民会館 ホール  
 内容 「こどものミカタ～不登校を題材に、味方になりたい私の見方～」  
 講師 峡東保健福祉事務所・精神保健福祉相談員 芦沢 茂喜 氏



申込 QR



## 峡東教育事務所からのお知らせ

- ◆6月27日の「子育て講演会」には多くの方にご参加いただきありがとうございました。  
 「講演録（アンケート結果を含む）」が完成しましたので、各所属に配布させていただきます。  
 以下はアンケートからの抜粋です。（詳細については、講演録をご覧ください）
  - ・当日参加者数158人（申込192名）
  - ・講演会について（Aよかった91% Bおおむねよかった9%）
  - ・今後役に立つと思いますか（A思う86% Bおおむね思う13% Cあまり思わない1%）
  - ・内容は関心のあるものでしたか（Aあった74% Bおおむねあった25% Cあまりなかった1%）
- ◆8月22日の「保幼小中連携セミナー」には多くの方にご参加いただきありがとうございました。  
 以下はアンケートからの抜粋です。（詳細については、11月発行の講演録をご覧ください）
  - ・当日参加者数182人（申込数204名）
  - ・講演会について（Aよかった96% Bおおむねよかった4%）
  - ・今後役に立つと思いますか（A思う93% Bおおむね思う7%）
  - ・内容は関心のあるものでしたか  
 （Aあった82% Bおおむねあった16% Cあまりなかった2%）

